

日本赤十字社
和歌山医療センター

医療連携だより



秋 号

No. 47



日本赤十字社

和歌山医療センター

和歌山市小松原通四丁目20番地
(発行責任者) 管理局長 河野 良寛

TEL : 073-421-8193 (医療連携課)

FAX : 073-427-3588 (医療連携課)

e-mail : renkei@kankyo.ne.jp

慢性閉塞性肺疾患(COPD)の 医療連携の会(和.CON)のご案内



呼吸器内科部副部長
池上 達義

呼吸器内科では COPD の医療連携を始めます。和歌山 COPD network、略して和.CON です。今回はその概要についてご紹介したいと思います。

呼吸困難や発熱で救急入院となり初めて重症の COPD と診断される例をよく経験します。私たち呼吸器内科医はこのような症例に出会う度に、もう少し早期に何とかならないものかという思いを

強くしています。

2001 年の大規模疫学調査 (NICE study, 福地ら) によると日本人の COPD 有病率は 40 歳以上で 8.6 %、患者数は 530 万人と推定されました。近年ではがんや心臓病、糖尿病と並んで増加率の著しい疾患です (図 1)。にもかかわらず認知度は低く診断率は 10 % 以下にとどまっています。罹患率や医療への負荷の大きさの割に過少診療となっている状況を、Peter J Barnes 博士は "neglected disease (見捨てられた疾患)" と表現しました。しかし近年強力な薬剤の開発が相次ぎ、「治療する疾患」となってきたことをもっと周知せねばなりません。

COPD は主として喫煙により起こる、咳や痰、息切れを主症状とする進行性の慢性呼吸器疾患です。呼吸機能検査 (スパイロ検査) で気管支拡張薬投与後の 1 秒率が 70 % 未満であれば COPD と診断されます。ただし中等症までは無症状のことが多く、症状が出る頃にはすでに重症化し、増悪を繰り返しながら予後不良となります。一方早期から禁煙や薬物療法、リハビリテーションなどの治療介入を行うことで、症状緩和、疾患進行や増悪の予防、そして予後改善が可能です。しかし、専門医で診断がついても待ち時間が長いなどの理由で治療が途切れてしまうことがしばしばです。

そこで医療連携です。COPD は専門医とかかりつけ医の利点を相補的に生かして患者さんが行き来できる「循環型医療連携」に適した疾患です。糖尿病における医療連携のイメージに近いのではないのでしょうか。

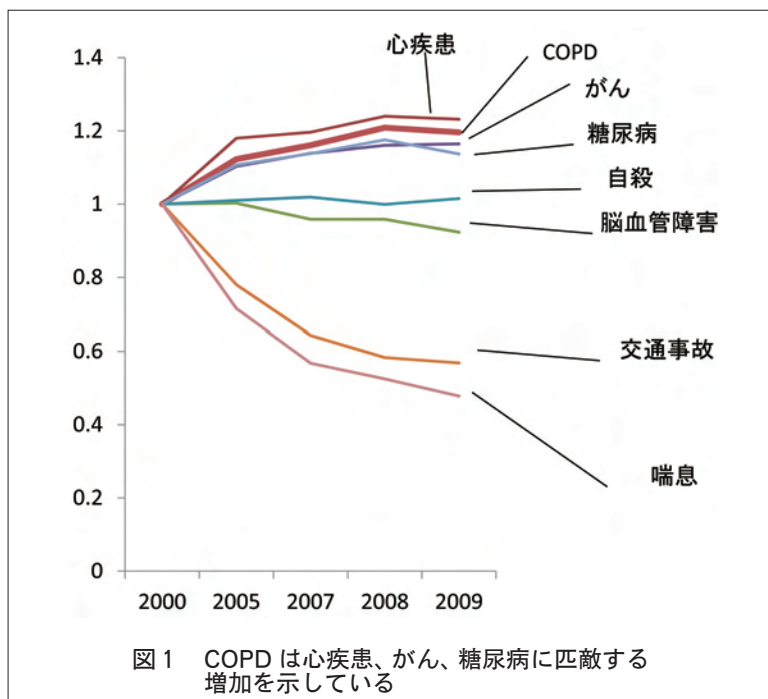
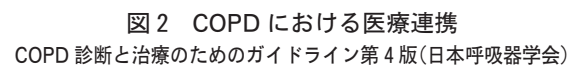
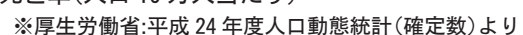


図 1 COPD は心疾患、がん、糖尿病に匹敵する増加を示している

かかりつけ医は増悪時に躊躇なく専門施設へ送ることができ、専門施設では外来への負荷が軽減して救急・入院医療により力を注ぐことができます。患者さんにとってはかかりつけ医と専門医のダブル主治医制となることで安心かつ利便性の高い医療を継続できます。呼吸器非専門医には扱いにくい疾患というイメージを持たれる先生方も多いかもしれませんが、診断基準が明快で確定診断が必ず得られ、診断がつけば非専門医でもガイドラインに則した管理が可能な疾患です。COPDの



最後になりましたが、和歌山県の COPD 死亡率は全国ワースト 1 位（平成 24 年度）（図 3）でした。この汚名を返上できるよう、先生方と手を携えて取り組んでいきたいと考えております。



COPD 医療連携の会（和.CON）へご参加いただける先生は、医療連携課までご連絡下さい。

病診連携への取り組み ～耳鼻咽喉科から見たネットワーク～



耳鼻咽喉科部副部長
医療連携運営委員

池田 浩己

平素は当センター及び当科に患者さんのご紹介を賜り、医療連携ネットワーク会員の先生方をはじめ、各医療機関の先生方には厚く御礼を申し上げます。診療所と病院および病院と病院の連携が大切であることはいうまでもなく、今後ますますそのパイプを強くしてかなければいけない時代に来ているものと考えています。今回当センター医療連携だよりに、当科で行っている病診連携事業についてご紹介し、当科および当センターの今後の方向性について提案したいと存じます。

当科は、去る平成 25 年 10 月 10 日に第 9 回和歌山・泉南耳鼻咽喉科頭頸部外科臨床研究会を開催いたしました。病診連携の会として患者さんをご紹介頂いた医療機関の先生方むけに、当科の現状や治療経過の発表をいたしました。今回は在籍耳鼻咽喉科医 7 名中 5 名の発表があり、終了後には情報交換会も開催いたしました。開業医の先生は 18 名の出席を数え、総勢 35 名の参加者でした。本会は「当センター周辺の医療機関において治療

を施行した耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の疾患に対し、基礎的および臨床治験の交換・討議をすることにより、医療の向上に寄与すること」を目的に、平成 21 年 10 月 31 日に発足しました。当科は平成 20 年 4 月に三浦誠部長が京都大学から着任され、京都大学耳鼻咽喉科の関連施設としては和歌山県で初めてとなります。当初は耳鼻咽喉科医 5 名で診療に従事しておりました。それまでは勤務 30 数年の前任部長が地域の開業医さんとの強いパイプを持っておられ、近隣の医療機関からの患者紹介もコンスタントにありました（年間 1,000 件以上！）。しかし前部長先生が定年退職されますとスタッフの交替・減員があり、他の医療機関からしますと顔の見えない耳鼻咽喉科になっていたのではないかと考えます。平成 21 年には紹介件数も 800 件を割り込みました。しかし、三浦部長の発案で開始したこの病診連携の研究会（通称：和鼻臨）を年に 2 回のペースで開催することにより、当科の治療内容や取り組みが他院の先生に伝わり、またスタッフと顔の見える懇親の良い機会となっています。紹介件数も 23・24 年度には 900 件を超え、本年も上半期（6 ヶ月間）で 500 件を



和鼻臨研究会でコメントする三浦部長



耳鼻咽喉科部スタッフ（H25 年 11 月現在）

超えています。今後は参加者の先生方からのご意見も取り入れて発表内容に反映するよう取り組んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます（次回は平成 26 年 4 月 17 日開催予定です）。

当センターは平成 15 年に外来部門から電子カルテ導入をはじめ、入院・各診療部門・検査部門・栄養課・透析部門・手術部門など、段階的に部門を加え紆余曲折（途中ベンダー交替）はございましたが、本年 2 月の重症系システム（ICU など）の導入でほぼ 100 % 電子カルテ化されました（表 1）。

平成 23 年には新本館での診療を開始し、耳鼻咽喉科もリニューアルされております。当センターは今ハード面では充実した状況にあり、次のステップとしてはソフト面での充実だと考えます。若手の先生に対する研修も行いながら、自分の専門のスキルをさらに磨いていくこと、またその現状が他医療機関の先生方に伝わるような努力をしていくことが必要と考えます。そのためにも実際ご紹介

いただく先生方と直接顔を合わせて、症例の検討をしていくことが年齢や技量の差を超えて、目の前の患者さんのためにできることをストレスなく提供できるシステム「病診連携」というソフトを充実していく必要性を痛感しています。

最近、医療連携ネットワークの会員であるなしにかかわらず、患者さんの診察予約が F A X で取れるので便利になった反面、土曜午前の来院患者の予約返事が次週になるなど、ネットワーク会員の先生方のメリットが希薄になったという意見も頂戴しております。これからは当センターが持つ患者さんの情報を、どうすれば安全・的確に連携をして頂く先生方と共有できるのか、病院全体で考えていく必要があると思います。先生方とは患者さんの為に良い連携を構築し、そのパイプを太くしていくよう努力させていただきたいと思えます。今後とも耳鼻咽喉科をはじめ日本赤十字社和歌山医療センターをよろしくお願い申し上げます。

平成14年	3月	オーダリングシステム運用開始
平成15年	4月	電子カルテシステム(外来)運用開始
平成16年	8月	電子カルテシステム(入院)運用開始
平成19年	1月	DPC支援システム導入(準備病院19年・20年)
平成21年	4月	医療情報ネットワークを更新(医療情報システム更新準備のため)
平成21年	8月	フィルムレス運用の開始(高精細モニタ全館導入に伴う)
平成21年	9月	オーダリング・電子カルテシステムの更新 生理機能検査、過去カルテ参照、放射線情報管理システムの運用開始 看護支援、病理検査、健診、病歴管理システムの更新
平成22年	1月	スキャナ運用・中央外来ファイル庫、診療情報統合システムの運用開始
平成24年	3月	手術室 Gaia システム運用開始
平成24年	9月	耳鼻咽喉科眼科生理機能検査 Claio システム運用開始
平成25年	2月	重症系 Acsys システム運用開始

（表 1）当センターにおけるシステム導入の経緯

平成25年度 「日本赤十字社和歌山医療センター医療連携ネットワークの集い」 開 催

標記集いが平成25年10月27日（日）午後3時30分からホテルグランヴィア和歌山に於いて開催され、和歌山県福祉保健部長ら、多くのご来賓の皆さまのご臨席を賜り、医療連携ネットワーク会員の先生方及び当センター職員他、総勢154名の出席を得ました。

今回は、座長の百名克文医療連携室長による本センター医療連携室の現状説明の後、本センター中大輔国内医療救援部長による「日本赤十字社和歌山医療センターにおける災害医療への取り組み」と田中内科医院院長 田中章慈先生による「診療報酬改定と地域医療連携・在宅医療の充実について」と題した講演が行われました。

その後、午後5時から意見交換会が開催され、会員の先生方と職員が活発に懇談し、一層の親睦を深め、盛会裏に終了となりました。



退職のお知らせ

9月30日付

脳神経外科部 中西 陽 子 (医 師)

10月31日付

血液内科部 右 京 直 哉 (副部長)

麻酔科部 藤 井 啓 介 (医 師)

上記の職員が退職いたしました。先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

就任のお知らせ

10月1日付

脳神経外科部 藪 下 哲 成 (医 師)

神経内科部 大 野 美 樹 (医 師)

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願いします。

紹介初診患者診察担当医師

平成25年11月1日現在

診療科名	月	火	水	木	金
循環器内科	部 長 田村 崇 —	副部長 豊福 守 後藤 貢士	副部長 湯月 洋介 —	副部長 北田 雅彦 中井健太郎	副部長 田中麻里子 —
消化器内科	部 長 山下 幸孝 副部長 浦井 俊二 瀨田 剛史 谷口 洋平 藪内 洋平	副部長 上野山義人 副部長 赤松 拓司 中谷 泰樹 東 俊次郎 岩上 裕吉	瀨田 剛史 谷口 洋平 幡丸 景一 三長 孝輔 —	部 長 山下 幸孝 副部長 浦井 俊二 中谷 泰樹 野口 未央 太田彩貴子	副部長 上野山義人 副部長 赤松 拓司 松本 久和 幡丸 景一 信岡 未由
糖尿病・内分泌内科	副部長 船越 生吾	部 長 井上 元	副部長 船越 生吾	部 長 井上 元	副部長 船越 生吾
血液内科	副部長 畑中 一生	部 長 直川 匡晴	岡 智子	副部長 畑中 一生	白神 大志
外 科	部 長 宇山 志朗	副院長 加藤 博明	副部長 一宮 正人	副院長 加藤 博明	部 長 宇山 志朗
乳腺外科	副部長 芳林 浩史 西村 友美	— —	副部長 芳林 浩史 西村 友美	(石灰化外来) —	副部長 芳林 浩史 西村 友美
小児外科	—	部 長 宇都宮裕文	横山 智至	部 長 宇都宮裕文	—
眼 科	黒田 健一 瀬戸口義尚 — —	部 長 大谷 篤史 黒田 健一 — —	— — — —	部 長 大谷 篤史 副部長 谷口 美砂 黒田 健一 黒田 健一 瀬戸口義尚	副部長 谷口 美砂 黒田 健一 — —
耳鼻咽喉科	部 長 三浦 誠	副部長 池田 浩己	部 長 三浦 誠	《交替制》	副部長 竹林 慎治
第一・第二産婦人科	第一部長 中村 光作	渡邊 のぞみ	稲田 収俊	副部長 山村 省吾	第二部長 吉田 隆昭
小 児 科	副部長 濱畑 啓悟 副部長 儘田 光和 井上美保子	部 長 吉田 晃 深尾 大輔 古宮 圭	院 長 百井 亨 副部長 儘田 光和 副部長 原 茂登	副部長 濱畑 啓悟 井上美保子 —	部 長 吉田 晃 深尾 大輔 古宮 圭
第一・第二泌尿器科	副院長 第一部長 林 正 第二部長 金岡 俊雄 副部長 玉置 雅弘	第二部長 金岡 俊雄 副部長 玉置 雅弘 山田 祐也	第二部長 金岡 俊雄 岡所 広祐 上山 裕樹	副院長 第一部長 林 正 副部長 玉置 雅弘 岡所 広祐	副院長 第一部長 林 正 上山 裕樹 山田 祐也
腎臓内科	川村 俊介 —	副部長 東 義人 山地 秀平	部 長 大伴裕美子 杉谷 盛太	副部長 東 義人 副部長 前沢 浩司	部 長 大伴裕美子 —
皮 膚 科	辻花光次郎	辻花光次郎	《交替制》	田中 麗沙	部 長 辻岡 馨
整形外科	部 長 百名 克文 副部長 玉置 康之 —	副部長 田中 康之 井上 悟 —	部 長 百名 克文 川井 康嗣 —	副部長 玉置 康之 — —	副部長 田中 康之 川井 康嗣 井上 悟
歯科口腔外科	部 長 千賀 人美 — —	田中 克彦 清水 航治 宮本 明日香	田中 克彦 清水 航治 —	田中 克彦 清水 航治 —	部 長 千賀 人美 宮本 明日香 —
放射線科	筒井／則久 —	筒井／則久 —	副院長 部長 筒井 一成 河村 晃	則久 佳毅 —	副院長 部長 筒井 一成 中島 良太
脳神経外科	部 長 津浦 光晴	副部長 垣下 浩二	《交替制》	部 長 津浦 光晴	—
麻 酔 科	副部長 箕西 利之	部 長 伊良波 浩	副部長 羽場 政法	平井 亜葵	大森 亜紀
呼吸器内科	部 長 杉田 孝和 野口 進	副部長 堀川 禎夫 —	杉尾 裕美 —	副部長 池上 達義 —	深尾 あかり —
心臓血管外科	名誉院長 小西 裕	—	部 長 青田 正樹	—	—
神経内科	部 長 川村 眞弓 齊藤 聡	石川 奈々 大野 美樹	坂本 光弘 小芝 泰	部 長 川村 眞弓 綾木/菊井 (第2・4)/(第1・3・5)	櫻井 健世 石川/近藤 (第1・3・4・5)/(第2)
精 神 科	部 長 東 睦広	部 長 東 睦広	—	部 長 東 睦広	—
形成外科	富田 浩一	副部長 奥村 慶之	井上 真一	富田 浩一	井上 真一
呼吸器外科	—	副院長 部長 住友 伸一	石川 将史	—	副院長 部長 住友 伸一
心療内科	部 長 西田 慎二	—	—	部 長 西田 慎二	部 長 西田 慎二
リウマチ科 (膠原病)	— 秋月 修治	— —	中島 俊樹 寺尾知可史 (第1・3・5水曜)	— —	— 東 直人
漢方内科	—	—	部 長 山田 伸	上松 伸彦	—
神経救急部	—	部 長 中 大輔	—	部 長 中 大輔	—